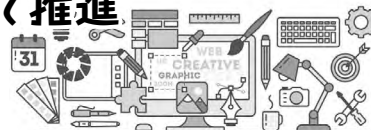


構想の背景を知って安心、納得して推進

GIGAスクールを 乗りこなす ⑥



新しい常識！ オンライン授業を日常化へ

天野光善

GIGAスクール構想推進委員会
利用促進部 遠隔教育サブ部会長

【監修】一般社団法人ICT CONNECT21

GIGAスクール構想推進委員会 情報発信部会

運営中のGIGAスクール構想の情報集積サイト「GIGA HUB WEB」

URL: <https://giga.ictconnect21.jp/> (GIGAスクール情報で検索)

遠隔教育サブ部会の活動

新型コロナウイルスが収まらない状況のなか、皮肉にも教育にニューノーマルの世界が広がっています。ダーウィンの進化論に「変化に対応できたもののみが生き残っている」とあるように、教育の世界もいかに変化に対応できるかで、日本の将来が変わってくるのではないかと思います。

遠隔教育サブ部会は、日本各地で遠隔教育にかかわってこられた先生や企業の方々で構成されています。部会の活動目的は、日本国内の学校現場において遠隔教育を推進することにあります。どのような活動が必要かを協議し、教育委員会、学校、先生のサポートに努めています。以前、実施したオンラインセミナーでは「2020年3月に緊急事態宣言が発令された際に、どのように遠隔授業をはじめたか」「自治体としてどのような対応をしてきたか」など、実際に取り組まれた方の事例をご発表いただきました（その内容は動画に収めております）。

ご登壇いただきました先生方が共通して発言されたのは「まずできることから始める」ということです。いきなりハードルの高いことをやる必要はなく、「まずはやってみる」。そして、やってみて、浮き彫りになった課題

に対応する体験を説かれています。実はこのやり方は「課題を発見し、解決させる方法を協働で考え、導き出す」方法。つまり、先生自身が、これからの子どもたちに指導したいことにほかならないのです。それを、先生方が自ら実践されていると思いました。

迷っている先生方がいらっしゃいましたら、ぜひ勇気をもって行動してみてくださいと思います。部会メンバーは、そのような先生方を強力に支援したいと考えております。

変わってきた遠隔授業の考え方

コロナ前の遠隔授業の状況を振り返ると、2015年度から実施された遠隔授業では、主に人口減少社会により引き起こる児童・生徒や先生への負担に対する課題を解決させる実証検証が行われてきました。この検証では遠隔授業を行うことにより、子どもたちが遠隔地にいる仲間に対して、どのような言い方をすれば伝わるか？を意識して話すようになり、その結果「簡潔に話すこと」の力の育成につながり、テストではB問題の成績が著しく向上するといった成果が見られました。

当時、遠隔授業が必要とされる地域は、人口減少が喫緊の課題であるところに限定されており、2019年の調査によると、全国の1,800自治体のうち、遠隔教育を実施し

ているのは、わずか36自治体でした。実施したいができていないのは463自治体で、全体の約25%。先にご紹介した人口減少の課題に関係なく、遠隔授業をすることにより、子どもたちへの情報活用能力や思考力、判断力、表現力を育む効果が立証されていたにもかかわらず、残念ながら、ほかの自治体はとくに必要ないという考え方に至っていました。

その後、新型コロナウイルスによるパンデミックが発生し、当時の調査状況が大きく変わってきています。2020年6月の調査によると、全国で同時双方向性の遠隔授業が行われた自治体は全体の15%にまで増加しました。そこから1年、コロナ第5波といった状況下で、遠隔授業を行える学校はどれくらい増えたでしょうか。全国規模の調査はされていませんが、まだまだ遠隔授業を行っている学校は多いとは言えないようです。

一方で、子どもたちが将来活躍する場でもある企業では、テレワークによるオンライン会議やオンライン営業など「オンライン○○」といった生活様式が急速に広まり、日常化されてきています。子どもたちも、緊急時だけでなく日頃から遠隔授業に携わることで、オンラインならではの思考、操作、運用を身につけることができると思います。たとえば「ミユートしてください」という言葉がわかる方

はどれくらいいらっしゃるでしょうか。ほんの小さな一例ですが、新しい常識が次々と生まれてきており、その常識にいち早く順応することが必要ではないかと考えます。

遠隔授業を日常化させるために

遠隔授業を日常化させるためには、「まずはやってみる」という考え方が重要ですが、さらには、その仕組みづくりが重要なポイントとなります。とくに、教師側の仕組みとして先生方の負担をなるべく軽減させたいものが必要です。そのためには、大前提としてICT教育環境が整っている必要があります。ご家庭のネットワーク環境や端末の持ち帰りの課題もまだ残っていますが、ICT教育環境を整えるためのGIGAスクール構想により、かつて根本的な課題であった学校側のネットワークの問題、PC端末の問題は徐々にクリアされていくことでしょう。

先日オンラインセミナーでは、先生方の負担を軽減する事例として、実物投影機を利用することが紹介されました。実物投影機を使った授業は、子どもたちが目の前にいるか、オンラインの向こう側にいるかの違いで、先生としては同じ授業で実現したという事例でした。ただ、遠隔授業システムとしては、マイクやカメラの位置などを考慮したシステム

を準備しなければなりません。また、遠隔授業システムは、機器だけでなく反響音の少ない床や壁など部屋づくりも重要になります。

これらの準備を不要にして、毎回同じ操作でオンライン授業を行うためには、一案としてPC教室を利用することが、さまざまな自治体で検討されてきています。普通教室で1人1台のPCが使える状態になったのであれば、PC教室を遠隔授業用の専用教室にするのは、とてもいいアイデアだと思います。このようにして、できることを工夫し、課題解決させていくことで、オンライン授業の日常化を実現させ、パンデミックに強い社会をつくっていくことが、今求められていることではないでしょうか。

遠隔教育サブ部会では、今後も、令和の日本型学校教育としてあるべき姿、「対面指導と遠隔・オンライン教育とのハイブリッド化による指導の充実」へ貢献できるよう、さまざまな事例紹介に取り組んでいきたいと思っております。

※1 【オンラインセミナー収録】
「オンライン授業事例」
教育委員会の
主催による
セミナーの
ための
紹介



※2 Facebookページ
「遠隔教育プロジェクト」

